

有機農業への取り組み



令和7年1月16日

富山県南砺市長 田中 幹夫

こんにちは「南砺市(なんとし)」です



- ・人口 46,198人(住基、R6.10末)
- ・世帯数 17,521世帯
- ・面積 668.64km²
- ・高齢化率 40.2%
- ・主要産業
アルミニウム、橋梁・建築建材、工作機械等の製造業、農業



五箇山合掌造り集落
(相倉集落)

散居村が広がる風景

南砺市は、富山県南西端に位置し、美しい散居村が広がる平野部から世界遺産「五箇山合掌造り集落」を有する山間部まで、豊かな自然の中に懐かしく美しい、日本の原風景が息づくまちです。

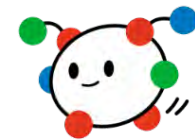
この地では、豊かな自然の恵みをいただき、大自然に感謝する心や相手を思いやる気質といった精神的風土(土徳)が根付いています。

豊かな風土の中で、多様な伝統文化や食文化、芸術文化など、かけがえのない資源が息づいています。



SDGs 未来都市
なんと

「一流の田舎」を目指す



都会は人がつくり、 田舎は神がつくる。

神は田舎をつくり、人間は都会をつくった
だとすれば、野や林の中においては健康と徳が満ち
あふれ、最もおびやかされることが少ないとしても
何の不思議があろう

英国の詩人 ウィリアム・クーパー

2017年実施の「第65回日本観光ポスターコンクール」で、
南砺市の観光ポスターがオンライン部門4位に！
審査員賞は逃したものの、オンライン投票部門で見事4
位を獲得。3位との票差は57票、また5位には220票もの
差をつけた大健闘です。

現在、主要駅や空港・イベント会場等で活躍しています。2

都会は人がつくり、
田舎は神がつくる。

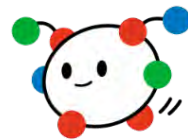
英国の詩人 ウィリアム・クーパー

富山県
南
砺
市
SHIRAKAWA
GOKKU
MURAKAMI

山深い雪国、美しい自然風景とともに生きる人々が生んだ、世界に誇る日本の伝統的
田舎が育んだものを後世へ、世界文化遺産、五箇山の合掌造り集落



SDGs 未来都市
なんと



市民が誇り・つなぐ南砺の伝統



五箇山（相倉・菅沼）
ユネスコ世界文化遺産



城端曳山祭
ユネスコ無形文化遺産



福野夜高祭
日本ユネスコ協会連盟
プロジェクト未来遺産



木彫刻のまち・井波
日本遺産(文化庁)

年間**345万人**の
観光客が来訪！

来訪された方が感じる魅力

食、お土産、人

※ **9割以上**がピートを希望

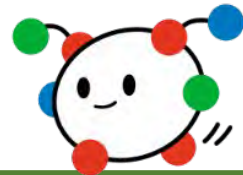


平・上平の自然
白山ユネスコエコパーク

- **南砺市農業の概況**
- **有機農業取り組みの経緯**
- **有機農業取り組みの概要**
- **まとめ**



南砺市の農業の概況



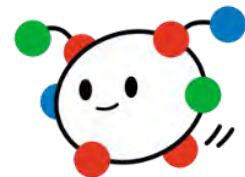
主な地域別特産作物

城端地域	酒米、にんにく、青ねぎ、干柿、そば
平地域	みょうが、赤かぶ、かぼちゃ（ぼべら）
上平地域	赤かぶ、かぼちゃ（ぼべら）、みょうが
利賀地域	そば、伯爵かぼちゃ、行者にんにく、みょうが
井波地域	里芋、チューリップ球根、たまねぎ
井口地域	黒大豆
福野地域	里芋、チューリップ球根、たまねぎ
福光地域	干柿、にんじん、ブロッコリー、アスパラガス





南砺市の農業の概況



- 平野部では、個別経営、法人経営、集落営農組織が混在し、中山間部になるほど、集落営農組織の経営体が多くなり、さらに山間部になると、農業公社などが農地を守るなど、地域農業を支えています。
- 耕地面積は、6,757ヘクタール（田耕地面積6,526ヘクタール、畑耕地面積231ヘクタール）【うち、有機農業面積42.5ヘクタール】で、豊富な水に育まれた良質な米の生産を柱とし、干柿などの特産品づくりにも取り組んでいます。
- 農業従事者の**減少・高齢化**で、担い手不足が最大の課題となっている。一方で、法人化する農業経営体数や認定農業者数、認定新規就農者数は増加しています。

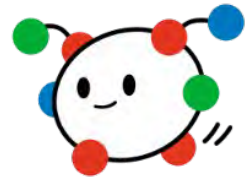
出典：2020年農林業センサス



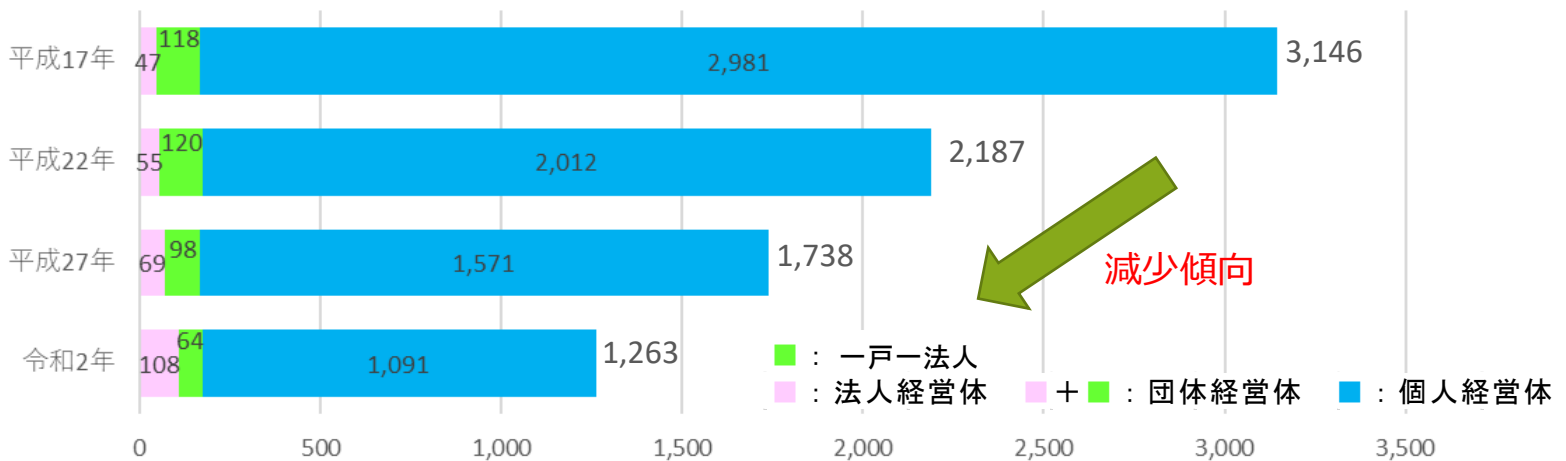


南砺市農業の概況

①農業経営体の推移



- 農業経営体 令和2年度：1,263経営➢平成27年から27.3%減少
- 個人経営体 令和2年度：1,091 経営➢平成27年から30.6%減少
- 団体経営体 令和2年度： 172 経営➢平成27年から3.0%増加
(法人経営体56.5%増、一戸一法人34.7%減)
- 農業経営体が減少している (27.3%) (法人経営体は56.5%増加)

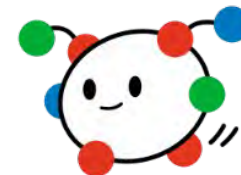


出典：2020年農林業センサス



南砺市農業の概況

②経営耕地面積の推移

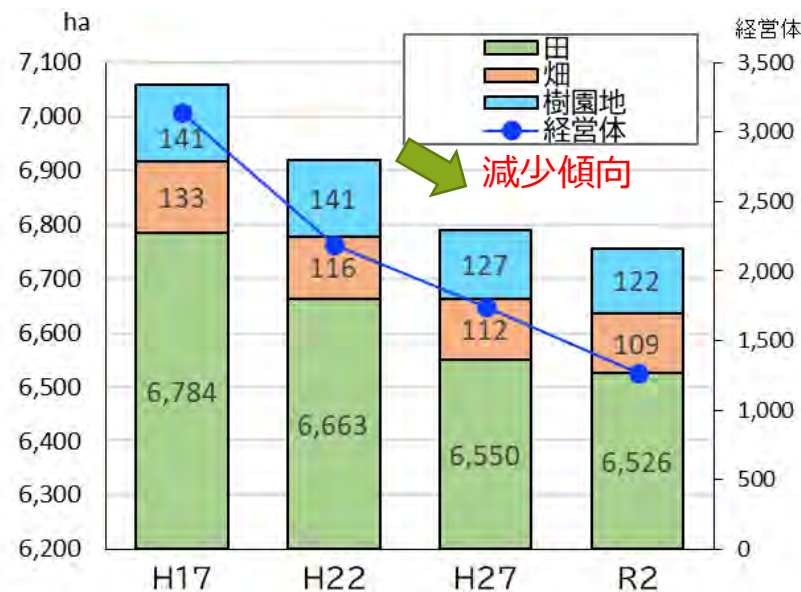


- 田 令和2年度：6,526 ha ➤平成27年から0.4%減少
- 畑 令和2年度： 109 ha ➤平成27年から2.7%減少
- 樹園地 令和2年度： 122 ha ➤平成27年から3.9%減少
- 経営耕地面積は田、畑、樹園地の全てにおいて年々

減少傾向にある

	田	畑	樹園地	合計
県全体	47,806	1,164	411	49,381
南砺市	6,526 (13.7)	109 (9.4)	122 (29.7)	6,757 (13.7)

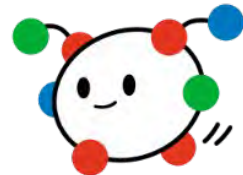
※ () は県全体に対する割合



出典：2020年農林業センサス

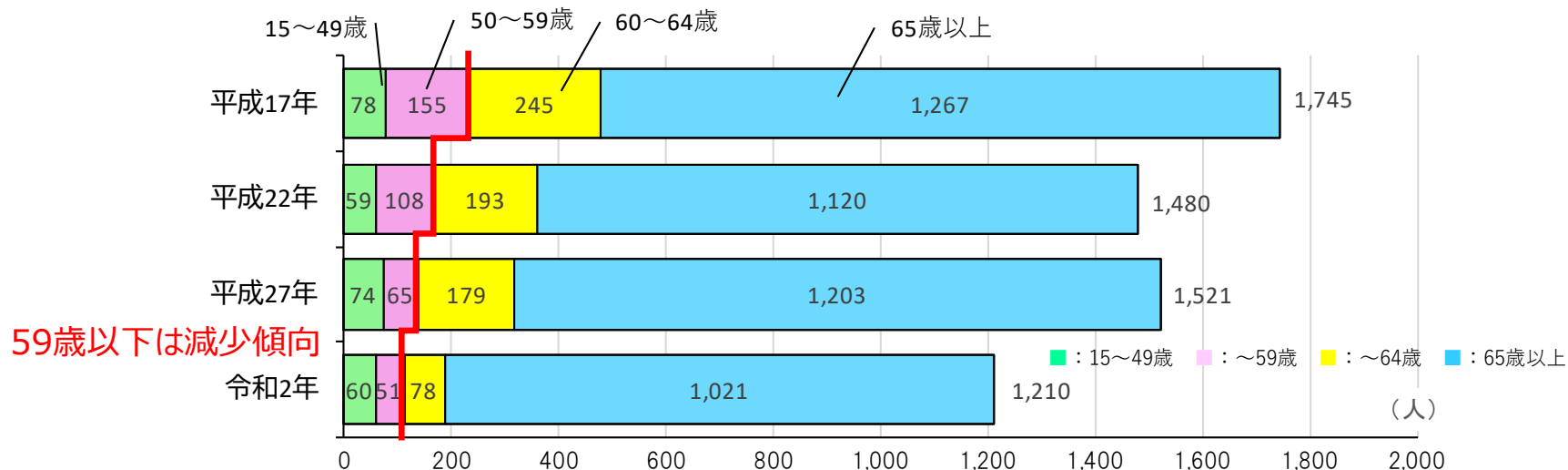


南砺市農業の概況



③基幹的農業従事者数の推移

- 60歳以上 令和2年度：1,099 人 ➤ 平成27年から20.5%減少
- 50～59歳 令和2年度： 51 人 ➤ 平成27年から21.5%減少
- 15～49歳 令和2年度： 60人 ➤ 平成27年から18.9%減少
- 農業従事者は、**60歳以上が全体の約8割を占め高齢化が顕著。59歳以下は減少傾向にある**



- 南砺市農業の概況
- 有機農業取り組みの経緯
- 有機農業取り組みの概要
- まとめ

地域資源の活用で生み出した資金を地域づくりへ

空き家活用型仕事の場合創出
(空き家・空き店舗活用)

なんと未来創造塾

特定地域づくり事業協同組合

経済 新しい価値を生むことが
「できる」地域を実現



取組 伝統ある地場産業とコンテンツ
産業による地域経済の活性化

ECサイトによる販路拡大

女性の起業・創業支援

オーガニックビレッジ宣言

土徳文化
文化伝承や
発信による
地域の誇り醸成

三側面をつなぐ統合的取組

相互補完・循環

南砺幸世
未来基金
活動資金や
人的ネットワーク等
を支援

小規模
多機能自治
住民参加による
真の住民自治の
再構築

社会 心豊かで安心して暮らす社会、
市民主体の課題解決に結びつく
多面的活動を推進



地域の伝統文化と南砺らしさを継承し
全ての人が健康で安心して暮らせる
社会の構築

地域包括ケアシステム

断らない相談窓口

ボクなん

こども権利条例
(こども部会)

エコビレッジ部活動

環境 豊富な地域資源を活用し、
自然と共生するライフスタイルを発信



取組 地域資源を活用・循環させ
ワクワクする「懐かしい未来」を実現
・環境に負荷の少ない暮らし方

木質バイオマス事業

森の学校

オーガニックビレッジ宣言

南砺らしい暮らしの
提案や学びが進み
自然との共生や環境負
担が少ない暮らしへ

茅場の再生

合掌造り家屋保存

エコビレッジ住宅ゾーン

地域新電力

再エネ開発

農業シェアリング

地域資源を活かした
エネルギー事業で
地域経済の活性化へ

有機農業取り組みの経緯

(背景・課題)

- ・ 農業経営体が減少している（H27比：27.3%減少）
- ・ 経営耕地面積は田、畑、樹園地の全てにおいて年々減少傾向にある
- ・ 農業従事者は、60歳以上が全体の約8割を占め高齢化が顕著。59歳以下は減少傾向

◎担い手不足・農業従事者の減少・高齢化が最大の課題

- ・ 一方で、近年、就農相談等では、有機農業者を志す方（移住希望者）が多い
- ・ しかし、有機農業は、作業量が増大、かつ栽培の難しさなどにより、安定的な生産及び収量・品質の確保が困難であること、さらには販売ルートの確保、販売戦略も必要となり、有機農業を継続し、独立経営していくには大きなハードルがある。

・ 南砺市内には、先駆的に有機農業に取り組んでおられる方がおられ、複数の有機農業者グループが存在。それぞれが栽培技術、販売チャンネルなどを持っていること、様々な場面で相談・交流ができる土壌がある。



そういった方々と連携を強化しながら、
厳しい環境下にある中山間地域において、付加価値の高い有機農業に取り組むことで、耕作放棄地の発生防止や、若い新規就農者の受入れによる地域活性化を推進する



有機農業取り組みの経緯

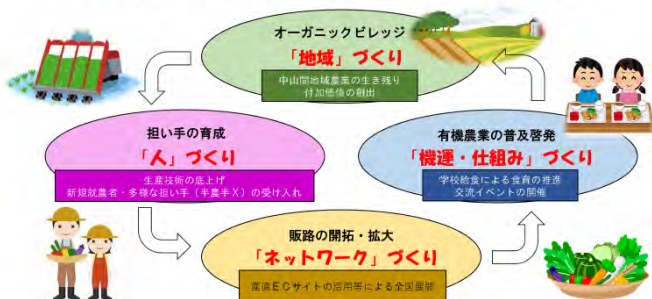
南砺市の強み

- ・南砺市には「人」、「人づくり」体制がある。
- ・県内の有機農業者のうち、約33%が南砺市が占める。
- ・有機農業者グループは、南砺市内だけでなく、県内の有機農業者を含めた団体もあり、生産技術や販路開拓、人材育成など幅広い分野で有機農業者を支えている。

南砺市オーガニックビレッジ宣言

- ・南砺市には豊かな自然を守り、人との繋がりを大切にする風土があります。その精神を大切にし、**長年、有機農業を培ってこられた先達となる農業者と、近年、有機農業を志す新規就農者**により、持続可能な農業に対する機運が高まりつつあります。そのような中、関係者が一丸となって、とりわけ**厳しい環境下にある中山間地域において、付加価値の高い有機農業に取り組むことで、耕作放棄地の発生防止や、若い新規就農者の受入れによる地域活性化を推し進めたい**と考えています。
- ・有機農業を進めることにより**南砺市ならではの「農」と「食」の魅力**を国内外に発信できるよう体制整備を進めるとともに、地域全体の更なる発展を目指し、ここに「オーガニックビレッジ宣言」をします。
- ・また、**SDGsも積極的に推進**しており、オーガニックビレッジを進めることで、農業の側面から持続可能な地域づくりにも寄与していきたいと考えています。

南砺市『オーガニックビレッジ』構想



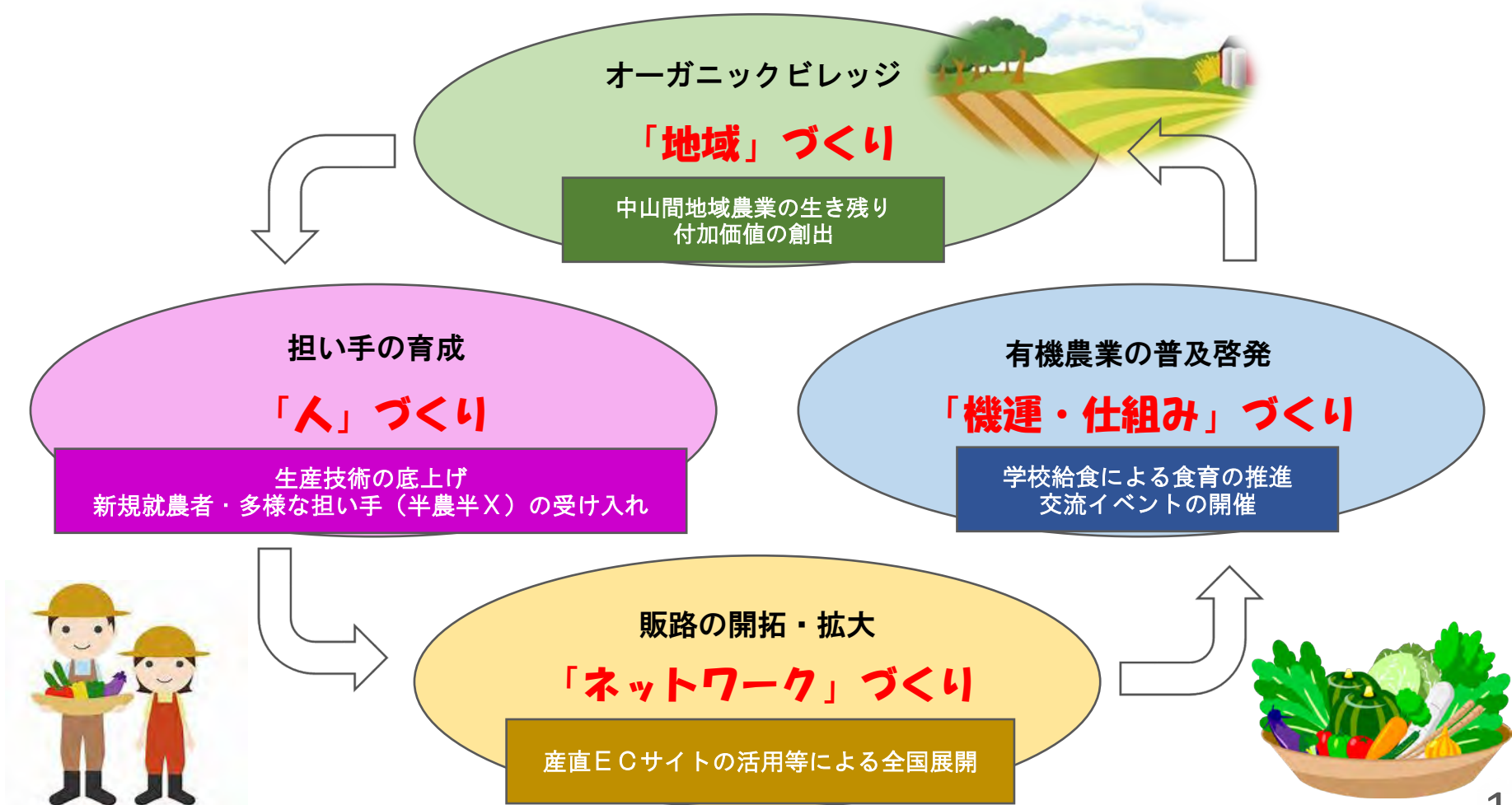
令和5年4月4日

南砺市長

田中幹夫

- 南砺市農業の概況
- 有機農業取り組みの経緯
- **有機農業取り組みの概要**
- まとめ

4本の柱を循環⇒有機農業の拡大を図る



有機農業取り組みの概要

「地域」づくり

五箇山地区（有機農業空白地域）における有機農業の初展開

有機農業による栽培実証試験圃（50a）の設置、
乗用除草機の導入、アイガモロボ導入による労働力削減
地元企業とのタイアップ（販路先確保）

伝統野菜「五箇山かぶら」の復活・生産拡大

他品種との交配を防ぐため、人里離れた山あいの耕作放棄地を復旧し、
有機栽培により在来品種「五箇山かぶら」の優良な種を確保



五箇山地区内にある
「世界遺産合掌造り集落」

「人」づくり

収量・品質の安定生産に向けた生産技術力の向上

先進農家へ出向き、土づくりの実地研修の開催
講習会・研修の実施
（仮称）南砺市オーガニックスクール構想
農業者同士をつなぐ地域おこし協力隊の採用



「ネットワーク」づくり

“外”に向けた販売戦略による南砺市有機農産物の知名度向上・ファンの獲得

産直ECサイトの活用による販路開拓・拡大
武蔵野市での交流イベントの開催ほか
五箇山御膳の開発

南砺野菜 定期配送便



「機運・仕組み」づくり

“内”に向けた有機農業への理解の醸成・地産地消（学校給食）による安定供給体制の強化

生産者と消費者との農作業体験等交流イベント（年間を通じた体験農園）の開催
生き物調査の実施による環境負荷軽減効果のデータ収集・分析
有機農産物生産動画の作成による食育の推進
学校給食による食育の推進・有機農産物の集荷配送体制の確立
（なんと自然給食ものがたり）



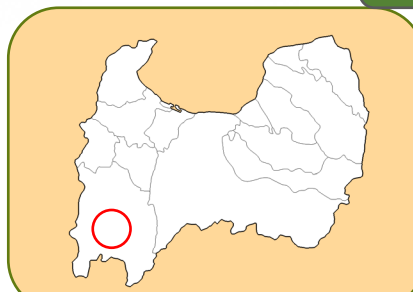
有機農業 空白地域での拡大への挑戦

「地域」づくり

～五箇山地域～

- ・世界遺産五箇山合掌造り集落のある標高300～600mの中山間地域
- ・少子高齢化が著しい地域で、集落営農組織が組織されないため、市が出資した「公益財団法人 五箇山農業公社」が、農業機械を使用する基幹作業を担う
- ・今まで、有機農業の実績はない

五箇山農業公社が中心となって、今まで実施することがない有機農業に挑戦！！



〔実証圃場〕
富山県南砺市五箇山地域
(約50a)



◎推進体制の確立

基幹作業

当地区の「公益財団法人 五箇山農業公社」が育苗、田植え、稲刈りを担当しています。

乾燥調製は、地元の「なんと農業協同組合」が請け負っています。



中間管理作業

当地区の「NPO法人 雪峯倶楽部」が水管理と除草作業を担当しています。

アイガモロボを導入し、省力化を図っています。



病虫害対策

市内の先進農家の指導を受けながら、栽培管理を行っています。

R4は、お盆後の長雨による日照不足と多湿が影響し、穂イモチ病が発生するなど、病虫害対策と収量確保に苦労しました。



五箇山地域

除草作業労力の軽減 ⇒ 乗用除草機の導入（令和6年度）



有機農業 空白地域での拡大への挑戦

取組
事例

付加価値を高め
新たなブランドの創出！

・五箇山米プロジェクト（令和4年度～）

五箇山農業公社が栽培した有機農業のお米を使い、日の出屋製菓産業が米菓の製造販売を行う。市内の事業者が連携して付加価値の高い商品を作り、南砺産米のブランド力を高める。



・有機酒米で日本酒造り（令和5年度～）

五箇山農業公社が栽培した有機農業の酒米を使い、地元五箇山で酒造販売を行う三笑楽酒造が新たな日本酒づくりを行う。五箇山の魅力が詰まった新しい日本酒のブランド化を目指す。



・五箇山御膳の開発



五箇山御膳の開発

「ネットワーク」づくり

五箇山御膳 とは？

(1食4,400円)

地元旅館で料理長を務めた料理人の監修のもと、有機農業に挑戦中のお米や五箇山かぶらはじめ、大豆、大根、山菜等、南砺市の自然に育まれた有機農業による食材を使い、(五箇山地域に伝承されてきた)五箇山らしさがあふれる料理“五箇山御膳”。

当地に来て味わっていただくことで、有機農業を切り口にしたファンづくりを進め、有機農業の地域への定着を目指す。

OR5.10 第1弾提供 (五箇山合掌の里)

- 実績数・提供数 29人 (7日間)

※このほか、対応できずお断りした件数も10人弱

○旅行会社向けの試食会の開催

OR6.11 第2弾提供 (提供店舗追加)

(五箇山合掌の里 & よしのや旅館)

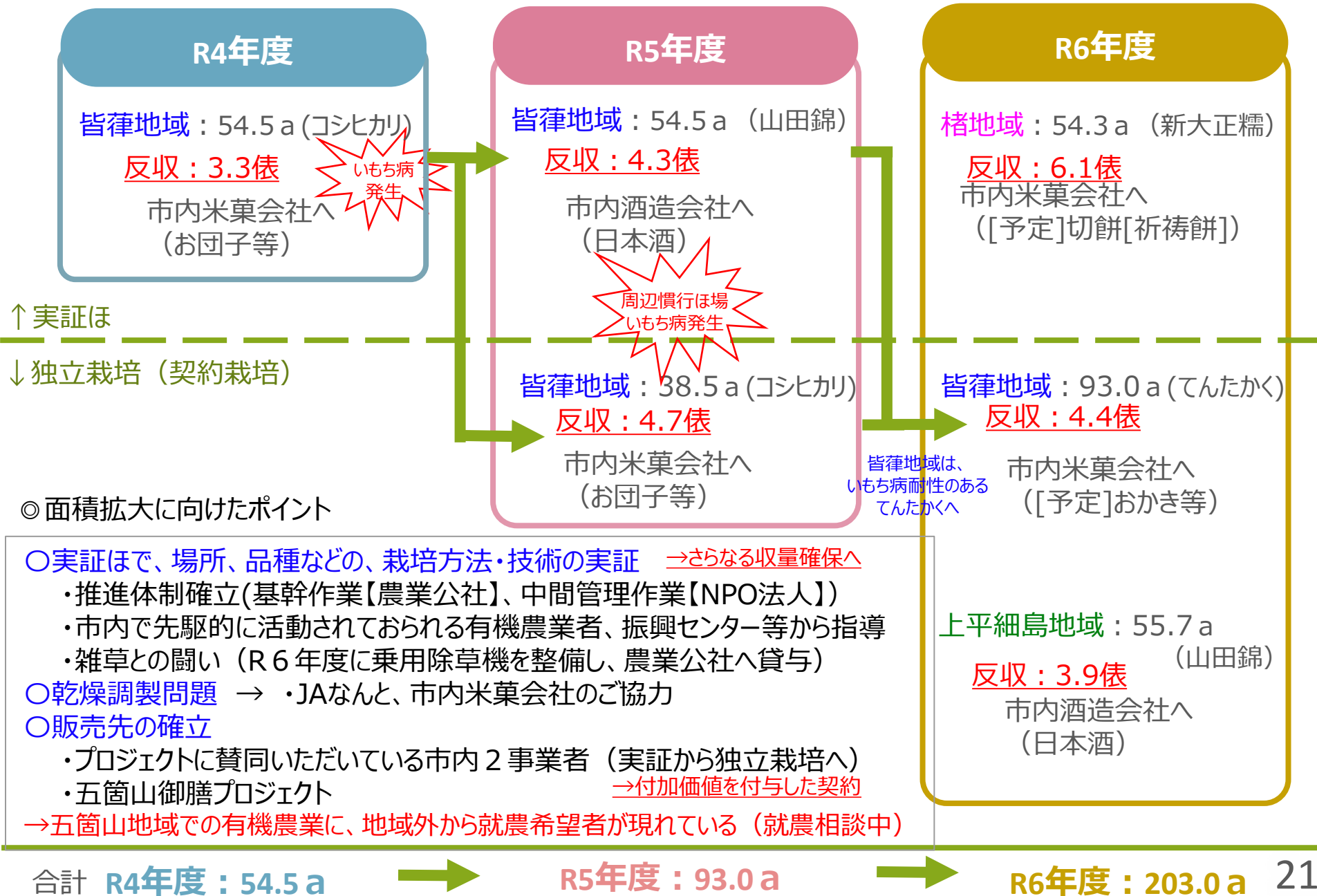
五箇山・南砺市の
有機農業食材



五箇山らしさ



有機農業空白地域からの拡大（五箇山地域）



伝統野菜「五箇山かぶら」の復活・生産拡大

「地域」づくり

～おちょこ一杯の種から～

世界遺産菅沼合掌造り集落の住民だった方が、久しぶりに故郷に帰ると、赤かぶが子供の頃食べたものと違っていた。
(現在、五箇山地域で売られているのは、飛騨紅かぶ)

在来種の“五箇山かぶら”が、もう食べられないと思っていたら、近所のおばあちゃんから、おちょこ一杯の種を分けてもらうことができた。

五箇山かぶら 伝承プロジェクト



五箇山かぶら

在来品種「五箇山かぶら」について、他品種との交配を防ぐため、人里離れた山あいの耕作放棄地を復旧し、おちょこ一杯の種から、有機栽培で優良な種を確保・増産し、地域の新たな特産化を目指す。

耕作放棄地復旧

7月1日林道 復旧前



整備の様子

7月30日林道 復旧後



7月1日耕作放棄地 復旧前



7月30日耕作放棄地 復旧後



五箇山かぶら栽培の様

8月25日播種



9月8日



9月24日



11月22日選別



10月20日



耕作放棄地の解消と、新たな特産化による地域活性化へ

人づくり事業（講習会・現地視察・実地研修等）

新たに有機農業を始めよう・転換しようとする人が、市内の先駆的な有機農業者に気軽に相談できる体制づくり

◎講習会

◎現地視察

- ・埼玉県小川町などへ県内外現地視察
- ・南砺市内有機農業者のほ場を、南砺市内の慣行農業者が現地視察
→市内有機農業者×市内慣行農業者の交流促進



◎実地研修

- ・土づくりの先進農家へ出向き、土づくりの実地研修の開催

- ・南砺市の若手農業者が5名が参加

→参加者による報告会を開催し、研修内容の共有

有機農業 現地視察研修 報告書

日時：令和5年11月21日(火)13:00
～11月22日(水)15:30頃
場所：堆肥・育土研究所
徳本力男先生宅 及び ほ場

実地研修報告会

日時：令和6年3月6日 14:00～



～ 農家の元で有機・自然栽培・環境保全型農業を学び体験し、PR&情報発信し、身近なものへ ～

412
フォロー中

◎令和4年度事業

・産直ECサイトを構築し、遠隔地の消費者への販売効果の検証を実施

・有機農業の展示会への参加や商談会等を実施

参加した展示会の名称：吉祥寺農家×生産者交流会

開催日：令和4年12月16日

参加者：13名

(吉祥寺飲食店経営者10名、南砺市内農家3名)

★産直ECサイトでの定期配送便の実績数

R4年度 約70件 約25万円

R5年度 約120件 約45万円

R6年度 約100件 約36万円(11月までの8ヶ月間)

南砺市「なんとしでせうせうけ」キャンペーン実行委員会 / 南砺市農産局

南砺野菜 定期配送便

powered by なんとしのね

高山産の西芹、唐揚げ(なんとし)の豊かな自然に育まれた、
選りすぐりの野菜をお届けする定期配送便がはじまりました。
希望での購入も可能です。



	S	M
定期購入の場合 3,200yen 税込送料別	3,200yen 税込送料別	3,900yen 税込送料別
単発購入の場合 3,600yen 税込送料別	3,600yen 税込送料別	4,400yen 税込送料別

ご定購の野菜は「なんとしのね」の農産物としてお届けいたします。
当市産野菜などございましたら、ご購入の際に備考欄に記載いただけますようお願いいたします。

ご購入・定期配送詳細はこちらから>

南砺市農産局にある「なんとしのね」で必ず取り置き販売です。
ネットショップで決済のみ、手取金をお支払いください。お支払いは現金またはクレジットカードでお願いします。



◎令和5年度事業

イベント名：南砺・武蔵野 友好都市企画 NANTO・ICHIBA

- (1)内容：武蔵野市で開催のファーマーズマーケットにて南砺市産有機農産物のPRを実施。
- (2)開催日時：R5年10/14～10/15
- (3)開催場所：武蔵野市 coppice KICHIJOJI A館 3F
- (4)参加者：両日1500名程度（参加者内訳：南砺市農業者6名、武蔵野市市民1500名程度）
- (5)その他：後日会場に足を運んだ武蔵野市ビジネスカスタマーへの商談活動を行い9事業者と新規に農産物取引を開始。

イベント名：南砺有機農産物体験ツアー

- (1)内容：武蔵野市の有機農産物に興味を持たれている方を対象に有機農産物の生産現場を見学するツアーを実施
- (2)開催日時：R5年11/18～11/19
- (3)開催場所：南砺市内 一円
- (4)参加者：20名（参加者内訳：南砺市農業者8名、武蔵野市12名）

◎令和6年度事業

イベント名：“吉祥寺音楽祭”武蔵野市×南砺市 友好都市企画 豊かな自然と食を感じる

- (1)内容：武蔵野市で開催のイベントにて南砺市産有機農産物のPRを実施。
「南砺野菜定期配送便」への購買に結びつける
- (2)開催日時：R6年5/3～5/5
- (3)開催場所：吉祥寺駅1階 南北自由通路





I 事業の目的

南砺市は全校、自校給食です

(子供達が毎日、楽しみにしている「給食」には、
たくさんの「ものがたり」が繋がっています。)

農薬・化学肥料不使用の農産物を活用することで、**学校給食等における食の安全・安心のさらなる向上**に努める。

児童生徒等が農業や食の安全などに関心をもち、環境保全や循環型、持続可能な社会への理解を深めるきっかけをつくるとともに、**生産等に関わる人々への感謝の心**を養う。

また、学校給食を安定的な供給先とすることで、**農業者の育成推進**に繋げる。

※取り組みイメージ

12 つくる責任
つかう責任



・地場産食材（オーガニックを含む）を活用した給食の推進により、持続可能な食料生産活動への貢献につなげる。

3 すべての人に
健康と福祉を



・「化学肥料」、「化学農薬」を使用しない食品を食べることで、児童生徒が健康で美味しいと感じる味覚をつくる。

8 働きがいも
経済成長も



市内農業者

・給食に地場産農産物を供給することで、所得の向上と安定につながり、働く意欲を持つことができる。（地産地消）

・有機農業の先進地とすることで、若手農業者の増につなげる。

4 質の高い教育を
みんなに



学校

・農業にふれ合う機会を設け、豊かな心を育む。

・生産、流通、消費の仕組みや農業について知識を深める。

15 陸の豊かさも
守ろう



・環境に優しい農業をすることで、生態系の維持、生物多様性に貢献することができる。また、児童生徒が生き物調査等の機会を通して、自然に興味を持つことができる。



「なんとも自然給食ものがたり」

「機運・仕組み」づくり

●食材の配送を農協に委託

発注から配送・納入までの流れ

1 学校



発注

2 協議会



発注書を各生産者に送付

3 農家



学校ごとに仕分け、納品書を添付しJAへ納入

5 学校



検品・受領

4 JA



学校ごとにまとめ・配送

市内に3つのJAがあるが、そのうちの1つのJAが
管轄外の学校にも配達





Ⅱ これまでの取り組み内容について

令和4年度

●保育園の取り組み

市内全市営保育園及び認定こども園においておやつの時間におにぎりや野菜を提供。お米は糠の栄養分を残すために7分づきで精米したものを使用。野菜はそのままの味が分かるように、調理方法を工夫して提供。

◎お米 6回 使用量 375.4kg

◎野菜 3回 使用量 200.5kg
(じゃがいも、さつまいも、にんじん)

●小・中学校の取り組み

市内全小・中学校・義務教育学校(16校)において市内産自然栽培米と農薬・化学肥料不使用の農作物を使用した給食を4回実施。(うち1回はフレンチ給食)

◎お米 3回 使用量 890.5kg
(*フレンチ給食は小松菜フォカッチャ)

◎野菜 4回 使用量 1,039.7kg
(大豆・にんにく・たまねぎ・トマト・じゃがいも・パプリカ・にんじん・大根・白ねぎ・さつまいも・小松菜・もち麦)





Ⅱ これまでの取り組み内容について

令和5年度

●保育園の取り組み

市内全市営保育園及び認定こども園においておやつの時間におにぎりや野菜を提供。お米は糠の栄養分を残すために7分づきで精米したものを使用。野菜はそのままの味が分かるように、調理方法を工夫して提供。

◎お米 6回 使用量 270.9kg

◎野菜 3回 使用量 110.5kg
(さつまいも、にんじん)

●アンケートの実施

小・中学校・義務教育学校の児童・生徒（666名）及びその保護者を対象にアンケートを実施。（実施者：南砺市）
(回答率：児童・生徒68.6%、保護者33.9%)

●小・中学校の取り組み

市内全小・中学校・義務教育学校（16校）において市内産自然栽培米と農薬・化学肥料不使用の農作物を使用した給食を4回実施。（うち1回はフレンチ給食）

◎お米 3回 使用量 880.0kg
(＊フレンチ給食は小松菜フォカッチャ)

◎野菜 4回 使用量 1,010.1kg
(大豆・にんにく・たまねぎ・じゃがいも・カリフラワー・にんじん・ほうれん草・キャベツ・さつまいも・小松菜・もち麦)



令和6年度



●保育園の取り組み（見込み）

市内全市営保育園及び認定こども園においておやつの時間におにぎりや野菜を提供。お米は糠の栄養分を残すために7分づきで精米したものを使用。野菜はそのままの味が分かるように、調理方法を工夫して提供。

◎お米 6回 使用量 240.0kg

◎野菜 3回 使用量 160.5kg
(さつまいも、にんじん)

●小・中学校の取り組み（見込み）

市内全小・中学校・義務教育学校（15校）において市内産自然栽培米と農薬・化学肥料不使用の農作物を使用した給食を9回実施。

◎お米 9回 使用量 2,591.0kg

◎野菜 9回 使用量 1,250.0kg

(大豆・にんにく・たまねぎ・じゃがいも・カリフラワー・にんじん・ほうれん草・キャベツ・さつまいも・小松菜・もち麦)

●アンケート引き続き実施

令和7年度以降

環境にやさしい給食と認識している児童・生徒増えていることから引き続き、特別給食として実施していく。繰り返し特別給食として実施することで農業や食の安全などへの関心を深める。

◎実施回数の拡充

●保育園の取り組み

市内全市営保育園及び認定こども園において給食やおやつの時間に自然農法や有機農法により栽培された米や野菜を提供。

●小・中・義務教育学校の取り組み

市内全小・中・義務教育学校（15校）において市内産自然栽培米と農薬・化学肥料不使用の農作物を使用した給食を年10回実施。（うち1回は伝承料理やフレンチ給食などの特別献立）

◎その他

掛かりまし経費等の納入価格の検討

給食・授業からの食育へ

「機運・仕組み」づくり

●「なんと自然給食ものがたり」紹介動画作成 YouTubeで配信



●生産者・一つ星レストランシェフ等との交流



●学校独自で総合的な学習の時間に（～城端小学校5年生～）

①「無農薬・無化学肥料で 新大正糯の栽培」

地域の農業者から指導を受けて、
米作りを学ぶ

・「うま笑顔生産会社」

新大正もち米作りの歴史や米の栽培
に関する調査・実践

・「対処法会社」

自然由来の除草や防虫方法の研究、
雑草や虫の対策を考える

②重要なミッション 「雑草取り作業」



卵の殻を砕いた「エッグツチ」や、
はちみつを溶かした「はちみっち」
を使い、雑草抑制の実験

③給食残渣を活用した 堆肥づくりの挑戦

地域の堆肥を作っている有機農
業者に堆肥の必要性を学び、給
食残渣を回収し、堆肥づくりに
挑戦



④収穫したお米で 餅つきと販売

収穫したお米は、イベントで、
餅つきをして、振る舞い。
また、家族や地域の人に販売を
して、その売り上げを次年度の
5年生に引き継ぐ



児童は、自然の大
切さや持続可能な米
作りの知識を深める
とともに、循環型の
暮らしの大切さを感じ、食と農に対する
理解を深めている。

「赤坂学園オーガニックデイ ～オーガニックビレッジ連携給食～」

●港区立小中一貫教育校の給食に南砺市内の有機農業者のお米を提供

港区教育委員会が主催、日本オーガニック会議と農林水産省の協力のもと開催された、港区立小中一貫教育校での「赤坂学園オーガニックデイ（令和6年12月6日）」
⇒全国の有機農産物を使った給食が提供され、

南砺市の有機農業者「なべちゃん農場」のお米が使われた

ご本人も、講師として登壇。

⇒有機農業による「周辺環境の変化、米づくりや、自然栽培への想い」を講演

●日本オーガニック会議による「オガビレ・フレンズシティ構築

「オガビレ・フレンズシティ構想」

有機農業の産地を有する自治体と都市部の消費地である自治体が「フレンズシティ」として連携することで、互いの消費と生産を循環させ、地域づくり、まちづくりに生かす。





南砺市内の有機農業者

なべちゃん農場 渡辺 吉一さん

- ・中山間地域の限界集落で、農薬、化学肥料を全く使用しない自然栽培米を手がける。
- ・60歳までは、地元の農協に勤務。
- ・ある日、農薬をまいていたら途中で苦しくなり体調を崩したことを契機に、農協を退社後、耕作放棄地で、自然栽培を始める。
- ・近年は、**自然栽培をやりたいという方が多く集まっており、集落内の空き家に移住している。**
(本人は、南砺市空き家対策推進員も務める)
- ・**小規模農業、移住者半農半X**による、限界集落の地域活性化



5.0kg5,000円でも完売する『なべちゃんブランド』



やぎ、チェーン、機械など工夫した除草作業



←モリアオガエルの卵。自然栽培を始めたから、ホタル、アカハライモリなどの虫等が戻ってきた(子どもの頃の原風景)



移住者、半農半X、市内保育園・幼稚園、田んぼの教室の受講者などと一緒に、農作業。参加者が多く、限界集落が賑わっている



南砺市内の小中学校・保育園・幼稚園の給食米にも...

有機農業の取り組み（その他）

田んぼの教室（体験農園）

「機運・仕組み」づくり

なべちゃん農場に魅せられた女性2名が南砺市に移住し、一般社団法人を設立。なべちゃんと女性2名による米作り教室を開催

トラクター研修・耕起、代掻き、田植え、除草、電気柵設置、溝切、稲刈り、脱穀、土づくり、調理実習に至るまで、年間を通じた米作り教室プログラム

- 令和4年度教室
 - ・全12回 延べ214名
- 令和5年度教室
 - ・全9回 延べ 97名
 - ・OB・OGによる体験農園
- 令和6年度開催中
 - ※教室参加者から、有機農業に取り組む人も。
(残念ながら南砺市外)

荒起し



苗運び



代掻き



田植え



除草



稲刈り



代掻き



田植え



座学



籾殻燻炭作り



試作



有機農業の取り組み（その他）

親子で体験!! 田んぼの生き物教室

「機運・仕組み」づくり

化学肥料や農薬に頼らない田んぼにおいて、生息する生きものがどのように変移していくのかを調査しながら、小学生に有機農業の活動を知ってもらい、親子で、自然に触れ合い、環境について考える機会を醸成する

●令和4年度 募集範囲：市内の小学生と親 (定員20名程度)

参加者：小学生13名、親・家族8名 計21名

★アンケート結果★

- (1) 楽しかった・大変満足 17名 (82.4%)
- (2) まあまあ楽しかった・満足 2名 (11.8%)
- (3) あまり楽しくなかった・
あまり満足ではない 1名 (5.9%)
- (4) 楽しくなかった・満足ではない 0名

確認された主な生きもの
トノサマガエル
シュレーゲルアオガエル
アマガエル
アカハライモリ
アキアカネの幼虫
ヒメゲンゴロウ
キイロヒラタガムシ
ヒルの一種
チビゲンゴロウ
コガシラミズムシ
など



●令和5年度 募集範囲：市内の小学生と親 (定員15名程度)

参加者：小学生7名、親・家族8名 計15名

確認された主な生きもの
アマガエル
アキアカネと思われる幼虫
ヒメゲンゴロウ
(成虫、幼虫ともに)
チビゲンゴロウ
キイロヒラタガムシ
ゴマフガムシの一種
コガシラミズムシ
コガタノミズアブと思われる幼虫
イネミズゾウムシ
コミズムシの一種
コルリクビボソハムシ
ウマビル
ヒラマキガイの一種
ヒメアメンボ
コモリグモの一種
など



- 南砺市農業の概況
- 有機農業取り組みの経緯
- 有機農業取り組みの概要
- **まとめ**

南砺市『オーガニックビレッジ』構想

有機農業栽培実証

学校給食

保育園のおやつ

五箇山かぶら伝承プロジェクト



田んぼの教室



料理教室



生き物調査



首都圏との交流



有機農産物のPR



首都圏マルシェ



先進地現地研修会



有機農業産地づくり研修会



地元企業とのタイアップ



オーガニックビレッジ
「地域」
づくり

担い手の育成
「人」
づくり

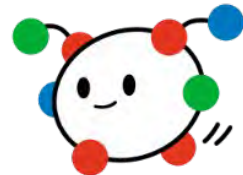
点から線へ、
そして面へ

有機農業の普及啓発
「機運・仕組み」
づくり

販路の開拓・拡大
「ネットワーク」
づくり



まとめ



- 有機農業面積 計画時(R3) : 3,492 a → 現在(R5) : 4,247 a ※2割増
- 有機農業者数 計画時(R3) : 24名 → 現在(R5) : 27名 ※1割増

※有機農業者数は、富山県内で3割以上を占める

※空白地域だった五箇山地域は、計画時(R3) : 0 a → 現在(R6) : 203.0 a

就農相談中ですが、五箇山地域での有機農業新規就農希望 1名

■ 慣行農業と有機農業の共存

南砺市内では、集落営農組織が多く、まだまだ慣行農業の割合が大きいですが、担い手不足で、集落営農組織等の存続が懸念されている。いかにして、農地を守っていくかということに関して、就農希望の多い有機農業が一つの大きな手段。

■ 有機農業の独立経営への難しさが課題

有機農業は、安定的な生産及び収量・品質確保が難しく、安定的な収入を得られにくいため、独立経営していくのがまだまだ難しい。継続した伴走支援が大変重要。

■ 人づくりの大切さ

市内の先駆的な有機農業者の栽培技術等の継承、推進体制の確立を促進することによって、新たに有機農業に取り組む人の受け入れ態勢の強化。有機農業者同士の交流を促進し、様々な相談ができる環境を整備が重要。

ご清聴ありがとうございました

